2020年12月期第2四半期　決算説明会（2020/7/30開催）
質疑応答要旨

※当日のご質問および回答に、一部表現の変更や加筆・修正を行っております。

Ｑ：コミュニケーションIT以外の3セグメントについて、第2四半期会計期間（4-6月、以下2Q）の受注環境と今後の見通しを教えてほしい。

Ａ：金融ソリューションセグメントの受注は第1四半期（1-3月、以下1Q）不調であったが2Qから改善傾向にあり、足元の引き合いもそれなりに出てきている。ビジネスソリューションセグメントの2Q受注は1Qより10億円ほど減少している。商談案件数が減少しているわけではないが、コロナ禍で新規のセールス活動が難しくなっていること等により受注までの期間が長引いている。製造ソリューションセグメントは2Qの受注が弱く、特にコンサルティングサービスは下期に向けても弱い状況が継続するのではないかと懸念している。ただし、ここで影響を受けているコンサルティングサービスは、実験解析や製品機能設計など特定分野に限定された案件であり、下流にシステム構築が控えているような案件ではない。製造業のDXに関わるようなコンサルティング案件は堅調に推移している。

Ｑ：コミュニケーションITセグメントが非常に好調だが、どこかで急激に勢いが衰えるのではないか？それとも継続して高水準で進むのか？

Ａ：コミュニケーションITセグメントのビジネスは大きく2種類、電通グループ向けにシステムの構築と運用を行うビジネスと電通グループと協業するビジネスがある。電通グループ向けビジネスは現在大型のシステム更改案件が進捗しており、それが来年までは継続する見通し。電通との協業ビジネスはいくつかの大型案件が進行中であり、下期もこの状況が継続すると思われるが、その後については新規案件を獲得していかない限り、案件終了のタイミングで反動減となる可能性はある。

以上

COPYRIGHT© *INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL-DENTSU, LTD.*